

令和元年度(2019年度)

病害虫発生予察情報 第11号

注意報第6号

北海道病害虫防除所 令和元年(2019年)年7月19日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

たまねぎでネギアザミウマ多発 ねぎ、あぶらな科野菜、アスパラガスなどで被害多発のおそれ！

長沼町および訓子府町のたまねぎ予察ほ場において、ネギアザミウマの成虫および幼虫密度が平年よりもかなり高く推移しています。6月6半旬および7月3半旬の巡回調査では、空知、石狩、オホーツクおよび十勝地方の一般ほ場で寄生株率が高い地点が認められています。今後1か月は、気温は高く、降水量は平年並と予報されているため、たまねぎで多発状態が継続するものと予想されます。特に1～2週目は高温と予報されており、寄生密度が急激に上昇するおそれがあります。中晩生品種では最終散布時期である7月下旬まで薬剤防除を継続してください。

ねぎでは通常7月中下旬以降に密度が上昇して、8～9月には高密度になります。特に、たまねぎほ場に近接しているねぎほ場では、密度上昇が急激に進む危険性が高いため、ほ場を観察し防除開始が遅れないようにしましょう。

キャベツ、はくさい、ブロッコリーなどのあぶらな科野菜およびアスパラガスも、ねぎと同様に7月中下旬以降は密度が高まりやすい作物です。あぶらな科野菜では定植直後から生育前半に密度が高まると葉が萎縮して生育遅延が発生するため注意が必要です。また、キャベツでは外観からは確認しにくい結球部被害が発生することがあり、多発条件では本種を対象とした薬剤防除が必要です。アスパラガスでは、若茎被害が発生する立茎栽培で特に注意が必要です。

道内において、上記作物以外にもレタス、ばれいしょ、ほうれんそうでも被害事例が確認されています。レタスではキャベツと同様に結球内被害が発生することがあり、外観からは被害が確認できないので注意が必要です。

また、過去のネギアザミウマ多発年では、大豆、てんさい、にんじん、緑肥用えん麦など、本種の被害が生じると考えられていなかった作物でも、寄生および増殖が確認されたことがあります。

近年道内の広い範囲においてピレスロイド剤に対する抵抗性のネギアザミウマが確認されているので、薬剤選択の際は注意しましょう。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生期 早

3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- (1) 長沼町および訓子府町の無防除のたまねぎ予察ほ場において、成虫および幼虫の寄生密度が平年より高く推移している。被害程度の上昇は平年より早かった(表1)。
- (2) 6月6半旬および7月3半旬の巡回調査において、空知、石狩、オホーツク、十勝地方で寄生株率50%以上の多発ほ場が認められている(表2)。
- (3) 7月18日付け札幌管区気象台の1か月予報(付記)によると、向こう1ヶ月の気象は、気温は高く、降水量は平年並と予報されていることから、発生量は平年より多い状態が続くものと予想される。特に1～2週目は高温と予報されており、寄生密度が急激に上昇するおそれがある。

5. 防除対策

- (1) 近年道内の広い範囲においてピレスロイド剤に対する抵抗性のネギアザミウマが確認されているので、薬剤選択の際は注意する。いずれの作物においても同一系統薬剤を連用しない。
- (2) たまねぎやアスパラガスなど本種の発生が多い作物に近接したほ場では、飛び込みが多く被害が発生しやすいので注意する。特に、たまねぎの倒伏期から収穫期にかけては、密度上昇が急激に進む危険性が高いので、ほ場を観察して早めの薬剤散布を実施する。
- (3) 高温乾燥条件となった場合、急激に密度上昇するおそれがあるので注意する。
- (4) <たまねぎ>
 - ① 効果の高い薬剤（プロチオホス乳剤、スピネトラム水和剤F（2,500倍）、フロメトキン水和剤F）を10日間隔で散布する。
 - ② 中晩生品種では7月20日以降の散布を最終散布とする。
 - ③ ネギハモグリバエりん茎被害発生地域では、8月上旬にネギハモグリバエに効果の高い薬剤（シアントラニリプロール水和剤F、チオシクラム水和剤DF）の2回散布をおこなう。
- (5) <ねぎ>
 - ① 収穫30日前までは、上位3葉の株あたり寄生頭数が10頭を上回る場合は薬剤防除をおこなう。
 - ② 収穫30日前から、効果の高い薬剤（スピネトラム水和剤F、フロメトキン水和剤F、トルフェンピラド乳剤）を7日間隔で散布する。
 - ③ 散布間隔が10日程度に開くと防除効果が劣る場合があるため、降雨などで予定日に散布できない危険性がある場合は、前回散布5日後程度に臨機防除剤（ピリダリル水和剤F、アバメクチン乳剤、ニテンピラム水溶剤）を散布する。
 - ④ 臨機防除剤を散布した場合は、その5日後に②に上げた効果の高い薬剤を散布する。
- (6) <キャベツ>
 - ① クロラントラニリプロール・チアメトキサム水和剤Fのセル苗灌注をおこなう。
 - ② 定植3週間後から効果の高い薬剤（フィプロニル水和剤F、スピネトラム水和剤F、フロメトキン水和剤F、トルフェンピラド乳剤）を7日間隔で散布する。
 - ③ 薬剤散布は収穫7日前、またはネギアザミウマのほ場への飛び込みが認められなくなるまで継続する。
 - ④ 防除にあたっては、他害虫の発生も考慮して、効率的な防除をおこなう。
- (7) <アスパラガス>
 - ① 施設栽培では、ハウス被覆資材に近紫外線除去フィルムを用いると侵入抑制効果が高い。また、ハウス側面外側地面に光反射資材を敷設することも侵入抑制に有効である。なお、表面が汚れると効果が低下するので注意する。
 - ② 立茎栽培では、若茎被害を防止するため効果の高い薬剤（アセタミプリド水溶剤、クロチアジン水溶剤、スピノサド水和剤DF）を7日間隔で2回散布する。散布前に擬葉のトリミングをおこなうと防除効果が高まる。

表1. たまねぎ予察ほでのネギアザミウマ発生状況

月半旬	長沼町						訓子府町					
	寄生虫数				食害程度		寄生虫数				食害程度	
	成虫		幼虫				成虫		幼虫			
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5.V	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
VI	7	0.0	0	0.0	2.5	0.0	34	0.1	0	0.0	3	0.1
6.I	22.5	0.7	0	0.1	13	0.1	133	0.6	0	0.0	24	0.5
II	37	1.9	15.5	0.1	29.5	1.5	165	3.0	41	0.0	25	3.7
III	44	2.7	80	0.7	35	2.4	238	6.8	205	3.3	44	7.4
IV	53	6.1	267	6.6	46	5.4	255	26.7	1353	23.0	72	20.9
V	94	10.2	592	59.2	56	9.5	98	48.5	2406	93.7	98	29.5
VI	221	15.2	686	185.4	68	15.1	134	58.0	3948	559.5	100	41.5
7.I	306	37.6	249	270.8	71	25.8	175	51.3	2889	1387.9	100	57.2
II	518	40.1	2244	149.6	86	35.8	460	64.0	2210	1631.9	100	70.5
III	297	64.5	659	370.4	98	42.2	275	101.2	1964	1837.7	100	81.7
IV		81.0		468.9		50.8		71.6		1957.9		91.6
V		76.8		508.0		58.1		51.1		1751.4		94.8
VI		35.8		244.7		60.1		23.0		1652.4		95.4

注) 25 株調査、寄生虫数は抽出3葉あたり、食害程度は全葉。

表2. 巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター	地点数	6月6半旬	7月3半旬	普及センター	地点数	6月6半旬	7月3半旬	
空知	本所	5	76.0	上川	富良野	4	3.0	
	南東部	3	20.0		士別	2	0	
	南西部	3	40.0		網走	本所	8	16.5
	中空知	1	16.0			美幌	4	2.0
石狩	北部	2	4.0	遠軽	3	28.0	52.0	
				十勝	東部	2	92.0	5.5

注) 25 株調査。

付記

北海道地方 1か月予報
(7月20日から8月19日までの天候見通し)

令和元年7月18日
札幌管区气象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、北海道日本海側で高い確率60%、北海道オホーツク海側・太平洋側で高い確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 北海道地方	20	30	50
【降水量】 北海道地方	30	30	40
【日照時間】 北海道地方日本海側	30	40	30
【日照時間】 北海道地方オホーツク海側	30	40	30
【日照時間】 北海道地方太平洋側	40	30	30

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 北海道地方日本海側	10	30	60
1週目 北海道地方オホーツク海側	20	30	50
1週目 北海道地方太平洋側	20	30	50
2週目 北海道地方	20	40	40
3~4週目 北海道地方	30	30	40

■低い □平年並 ■高い